

フェーズ	緊急期	復旧期 1			
		水が引いてから1週間	2週間	3週間	最初のひと月で求められる被災者支援
行政		給水車の配置	支援物資配布	入浴チケット配布	様々な支援が始まっていることを、情報が得にくい人に届くようにする（瓦版） 罹災証明の重要性や説明会の情報を知らせる 応急修理と住宅提供は選択制である事、半壊と大規模半壊で大きな差がある事を伝える 要配慮の人を受け入れる福祉避難所の確保
		災害ゴミかり置き場確保と告知	応援に基づく災害ゴミ回収		
		罹災証明の受付準備 受付	罹災判定と証明所発行		
			住宅支援（みなし仮設、公営住宅受付）		
				住宅支援策（応急修理受付）	
			高齢者障害者の安否確認	要介護の人を包括につなぐ	
地元 社協	災害ボラセン準備	災害ボラセン立ち上げ	泥かきニーズのマッチング		ボラセンの告知との依頼の仕方を知らせる
			片付けに使う道具、土嚢袋などの確保、送迎車や重機のオペレーターの確保、		派遣の優先順、活動の範囲が定まってきたら、社協で受けないニーズを外部支援組織につなぐ
		拠点、体制、資機材、マニュアル	炊き出し、マッサージなどの申し出にどう対処するか		スペシャルシーズのコーディネートをするグループを作る。関係を作るため極力断らずにつなぐ
県社協	情報収集	ボラセンへの応援体制作り	高速道路無料化の働きかけ、ボランティア受け入れ支援		遠方から入るボランティアへの支援
被災者 ペット同居 乳幼児がいる 持病がある 高齢者がいる 外国籍住民 農家 自営業者	避難所などへ避難	避難所に残る人	食、睡眠、トイレ、暑さ、ストレスで体調を崩しやすい人が増える		避難所環境改善、要配慮者の早期発見
		自宅に戻り片付けを始める	ボラセンに電話が繋がらない、すぐ来てくれない		ボラセンや支援組織のPR
			家にいると支援物資を取りに行けない		在宅被災者に物資を届ける仕組み
			風呂、トイレ、台所が使えず生活が困難	（一時住むアパート探し）	在宅被災者の生活環境の調査と見える化
		畳、タンスなどを戸外に出す作業	家、庭に入ったものの撤去、ゴミ出し	床下の泥出し、乾燥、消毒	片付けや家の乾燥に関する情報、機材提供
			車、エアコン室外機の破損確認と業者連絡	車の廃車手続き、中古車探し	車の抹消登録の仕方に関する情報提供は重要
		損害保険会社にどこまで補償されるか確認			
	避難所へ行きにくい		ペットと入れるみなし仮設を求めるニーズ		住宅供給主体（県）への配慮要請
			環境変化で母子ともに不安定な状況になる	片付けするときに子供を見て欲しい	子育て支援組織による被災したママのニーズ把握
		薬がなくなったり、通院が困難になる			交通機関が復活するまでの送迎を福祉関係者で検討
		情報を得にくく支援を求めにくい、	罹災証明などの申請も遅れやすい	説明会に同行したりわかりやすく説明 書類の翻訳、説明会での通訳	
		自分が加入している保険の内容を確認したい		書類の確認や保険会社への問い合わせ支援	
		ボラセンからの派遣が受けにくい	農地に入った泥や浮遊物の撤去には人手や重機が必要になる		
				商工会などと連携して片付けの応援に	